

校長 「丸茂 和也」

記述 (教頭)「長谷川 佳代」

学校教育目標 『知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成』

学校経営方針 「毎日が楽しく学びのある学校にしよう」

- ① 地域や児童の実態に応じた適切な教育課程の編成と実施に努める。
- ② より良い授業づくりと学習環境の整備を通して、確かな学力の育成に努める。
- ③ 生活規律を大切にし、思いやりの心を育む学級・学年づくりに努める。
- ④ 児童の体力向上・健康増進に努める。
- ⑤ 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の実施に努める。
- ⑥ 児童の安全・安心な生活を守り、保護者や地域に開かれた学校づくりに努める。

1 全体評価

- ・「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケートを実施した。結果は、A評価(とても思う)とB評価(思う)を合わせて肯定的な評価として捉えることとした。その中で8割を切る質問項目については課題と捉え改善策を考え、実施していく。
- ・一般的に教職員・児童・保護者のアンケート結果はどの項目も肯定的な評価結果であり、全体的に見て、本校教育の充実をうかがえる。
- ・児童アンケートでは、「学校が楽しいですか」「授業が楽しいですか」の質問項目に9割を超える児童が肯定的評価をしている。このことから、概ね児童は楽しい学校生活を送っていると言える。しかし、少数ではあるが否定的な評価もある。このことについては、重要課題として適切な支援指導を行っていく。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	・「学校教育目標・学校経営」については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。学校教育目標を踏まえた教育活動が計画的に行われている。また、8項目中7項目でA評価が最も高く教職員が学校教育目標を意識していることが伺える。昨年度課題であった個人によるPDCAサイクルについては、さらに取り組みを進める必要がある。
改善策	・PDCAサイクルについては、新学習指導要領でカリキュラムマネジメントには必要とされていることなので、今後も行事や活動ごとに振り返りを実施し、全職員で課題と改善策を明確にし、次の教育活動に生かすことに組織的に取り組んでいきたい。昨年度課題となったので、短時間で振り返りができるシートを作成したが、学年行事等の教育活動においてもできるようにしたい。また、多忙化改善には取り組んでいるものの新学習指導要領での内容が増えている状況ではこれ以上の削減が厳しい状況である。そういう中であって如何に改善を図るか模索していきたい。

II 学校運営について

達成状況	・学校運営についても、すべての項目で肯定的評価がほぼ100%であった。特に「校舎内外の施設設備の点検」と「校内研究への主体的な関わり」についてはA評価が10%以上増加した。特に「校内研究への主体的な関わり」については昨年度課題とされたことなので、今後も継続できるよう取り組んでいきたい。一方、「危機管理マニュアルへの理解」と「報告・連絡・相談・確認」についてA評価が減少したが、学校運営に関わる大切なポイントなので、意識して取り組んでいきたい。
改善策	・近年様々な危機管理マニュアルが出てきているため教職員にとって負担になる部分ではある。しかし、非常に重要なことなので、非常時に適切な対応ができるよう研修等を設け理解を図っていく。 ・「報告・連絡・相談・確認」については学年主任を中心にコミュニケーションを現在も取り合っているが、更に意識して取り組んでいきたい。

III 学習指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

達成状況	・教職員の自己評価では、学習指導については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。また、10項目の中でA評価が最も高い項目が7項目となり、教職員が意欲的に学習指導に取り組んでいることが伺える。昨年度課題とされた「玉幡小学校の学習ルール」や「やまなしスタンダードに沿った授業づくり」については、A評価が市全体と比較しても20%以上高い。一方、昨年度課題とした「質問や発言の出る授業」については更に減少したので、今後も努力を要する。 ・児童・保護者アンケートからは、学習活動を楽しんでいる児童の姿が見えてくる。「先生はよく勉強を教えてくれる」はほぼ100%、保護者の「学力向上への取り組み」の評価も上昇し、教師の指導
------	--

	<p>の熱意が伝わっていることがよくわかる。また、「宿題を忘れずしている児童」で9割以上は定着してきていることが伺えるが、一方「自主学習をしている児童」は2年連続で5%程度減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の約半数以上、保護者の約8割以上が読書時間は30分未満と答えている。豊かな言語活動ができる児童の育成を目指し、「質問や発言のでる授業づくり」や読書活動に取り組んでいきたい。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな言語活動ができる児童の育成には、「質問や発言のでる授業づくり」並びに読書や対話的な活動等に取り組むことが重要である。「質問や発言のでる授業」には発問内容・方法の工夫や児童の発言を瞬時に見極める力等が必要となるので、継続して校内研究等に取り組むことで改善していきたい。また、読書や対話的活動等については授業で効果的に取り組んでいけるよう校内研究でも具体的な活動を検討していく。 自主学習については「家庭学習の手引き」「がんばるカード」のねらいや効果について、保護者にさらに周知し理解を深め、学校と家庭が両輪となってこれらを活用できるようにしたい。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の自己評価では、生徒指導については、ほとんどの項目で肯定的評価が100%であった。また、7項目の中でA評価が最も高い項目が6項目となり、教職員が熱心に生徒指導に取り組んでいることが伺える。 「きまりを守る」「清掃をしっかりとる」「あいさつをする」「委員会活動にしっかりと取り組む」などについて、児童の肯定的回答が9割を超えている。依然として、児童の規範意識は高く、学校生活にまじめに取り組む児童の姿が見える。 多くの児童や保護者が「困ったときに相談できる友達や先生がいる」と回答している。一方で、「あまりいない」「いない」との回答もあり、看過できない。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> これからも、きまりを守り、「甲斐っ子の宝」「日本一のろうか」を意識して頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育てていきたい。 職員一人一人が児童の問題行動への感受性をさらに高め、保護者と連携をとりながら、教職員がチームとなり、早期発見・早期解決を図っていく。また、問題の未然防止のための取り組みもしていく。 生徒指導委員会・特別支援委員会の機能をさらに高め、Q・Uやいじめアンケートも活用しながら、課題のある児童に対して、きめ細かな対応をしていく。また、SC・SSW・家庭児童相談員など関係機関との連携をさらに強めて、児童指導にあたっていく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の自己評価において、地域との連携については、肯定的評価が高い。特に「お便りやHPでの広報」についてはA評価が8割と非常に高い。「地域・保護者は安全確保に努めている」「評議委員会が学校教育に活かされている」もA評価が昨年度より10%以上上昇した。一方、「地域人材を活かす指導」には、さらなる改善が期待される結果となった。 保護者の肯定的回答が全般に高く、授業参観、学校開放日等により、学校の様子が保護者によく伝わっていることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> これまでも、おたよりやHP、授業参観や学校行事を通じて保護者や地域に情報を提供してきた。これからも学校の思いを積極的に伝えるとともに、PTA・学校評議員会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートの実施により保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていきたい。 各担当が、連絡帳や電話でのやりとり、家庭訪問等をしながら、保護者と丁寧に関わってきた。これらを引き続き行いながら、保護者との信頼関係を築いていく。 学校応援団「チーム たまはた」の積極的な活用を通して、保護者・地域との連携を深めたり、ネットワークを広げたりしていきたい。外部団体のリーダーと連絡調整をするなど、学校にもボランティアの方々にも負担にならないような運用を模索していきたい。
3 まとめ	
<p><成果>・学校教育目標、学校経営方針の全職員の共通理解のもと、適切な学校運営ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域と学校が良好な関係を築いている。連携協力のもと、人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育活動が推進されている。 学校生活全般にわたり、まじめに取り組む児童が育っている。 <p><課題>・豊かな言語活動ができる児童の育成を目指し、対話的な授業づくりや読書活動の推進等に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭での自主学習等の取り組みのさらなる充実を図る。 学校応援団「チームたまはた」の活用や授業や行事を積極的に公開することを通して、開かれた学校づくりに取り組む。 すべての子が楽しく登校できる学校・学級づくりをさらに推進する。 	